

表1 予防的な指導援助の要点
(教師に対する調査結果より)

問題の 気づき	指導援助 の計画	本人の 指導援助	家族の 指導援助	学級への 指導援助	指導援助 の体制
<ul style="list-style-type: none"> 日頃から子供とのふれあいの時間を多くする。 子供の表情やしぐさなどわずかな変化に気づく。 対人関係に目を向ける。 親の養育態度など家庭の問題点に気づく。 日常観察や心理検査を通して子供の性格傾向を把握する。 既存の資料や情報から問題点に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題点の背景を考える。 何らかの形で指導計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の気持ちにそった対応をする。 子供を認め、褒め、励ます。 子供の話にうなずき、傾聴する。 自分自身に気づかせ、自己洞察を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問を実施し、親の協力を求める。 親の話を傾聴し、心情を理解する。 他の教師の協力を得る。 必要に応じ、二者面談等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの気持ちをもって接する。 思いやりの行動を紹介する。 本人が集団に受け入れられ、適応できる配慮をする。 教育相談的な授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師間で情報を提供し合う。 学年会を開くなどして共通理解を持つ。 教育相談係などに助言を求める。 役割を分担して指導助言に当たる。

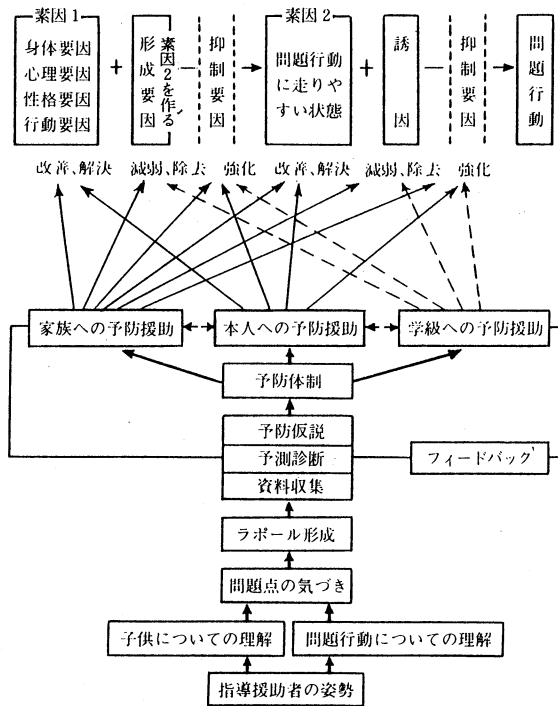
表2 予防的な指導援助の要点
(児童生徒に対する調査結果より)

- 問題行動の種を持つ子供に目を向け、援助する。
- 子供の発達過程や心理特徴を理解する。
- 子供の悩みの原因を探る。
- (家庭の悩み、友達関係の悩み、勉強の悩みなど)
- 子供との信頼関係を形成する。
- 子供の気持ちにそった適切な対応をする。
- (気持ちをはなれてあげ、励ます、論ず、体験談を話す、見守るなど)
- 相互支持的な学級集団を育成する。
- 規範意識を育てる。

これら調査結果と、当教育センターおよび学校における相談事例をもとに図4のような「予防過程」にまとめた。相談事例の詳細は省略するが、各事例ごとに「指導援助」を吟味し、図中にあるような「予防的な指導援助に必要なとされる要点」を明らかにした。

- 指導援助者の姿勢
- 子供についての理解
- 問題行動についての理解
- 問題点の気づき
- ラポールの形成
- 資料収集、予測診断、予防仮説
- 本人への予防援助(指導援助)
- 家族への予防援助(指導援助)

図4 問題行動の形成と予防過程

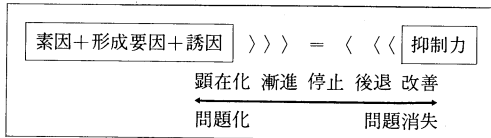


学級への予防援助(指導援助) 予防体制(指導体制) フィードバック

問題行動は、「素因1」に「形成要因」がはたらいて「素因2」が形成され、これに何らかの「誘因」が引き金となつてはたらくて発生するものと考えられる。しかし、このとき素因2の形成や問題行動の発生を抑制する力の働きがあれば、問題行動への進行を遅らせたり、食い止めたりすることが可能である。(図5参照)

予防援助とは、本人、家族、学級全体への援助を通して、素因の改善や解

図5 問題行動発生 の 推移



決、形成要因と誘因の減弱や除去、並びに問題行動の発生を抑制している何らかの要因「抑制要因」を強化することである。

そのためには、予防的な指導援助に必要とされる各要点を踏まえ、その順序に従う必要がある。

五、おわりに

予防的な指導援助についての調査と収集した事例から、共通した事項やかわりがみられ、そこから予防的な指導援助の要点と基本的な対応を集約することができた。(紙面の都合上、収集した事例や対応の具体例は省略)

これらの要点と基本的な対応が問題行動の発生予防になることを説明したこのことは、指導援助を構造的に進めるために役立つものと思われる。

また、予防的な指導援助の研究は過去の文献に多くの例を見ないことからこれら一連の研究は、予防的な指導援助について、今後、一つの参考資料になると思われる。第二回は、予防的な指導援助に直接活用できる具体的な内容と、参考になる実践事例を中心に集約する予定である。